

(様式 4)

令和 3 年 3 月 18 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立魚津高等学校
校長 小 泉 量 裕

令和 2 年度学校総合評価を別紙（様式 5）とともに提出します。

令和 2 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、現状と課題を教職員間で共有し、「進路指導方針の理念の共有」と「魚津高校らしい指導の継承」を学校運営の重点としてその改善に取り組んでいる。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校運営のあり方そのものを再検討する必要に迫られた。

学習活動では、昨年度より引き続き生徒が主体的・対話的な活動を通じて学習内容をより深く理解する「アクティブ・ラーニング」の充実を目指したが、臨時休校やソーシャル・ディスタンス確保等の措置により実施が困難となった。そこで、G Suite for Education を活用した遠隔授業や課題配布、さらにオンライン面接等のきめ細かな学習指導を実施し、生徒の学習機会を確保した。学校再開後も ICT ツールとリアルな指導を併用することでより効果的な学習活動を推進した。進路支援では、感染症拡大の影響により 2 年次の「生徒希望選択研修」は中止せざるを得なかったが、1 年次の「進路探究」はほぼ本来の形で実施でき、生徒の進路意識の高揚が図られた。学校評議員からは、生徒がより具体的な進路目標を設定して自己実現に結びつけられるよう、さらに魚津高校の特色を生かした取り組みを継続すべきとの意見があった。

学校生活では、スマートフォン等の適切な利用に関する授業を通じて、インターネット関連の正しい利用の仕方、特に SNS 等でトラブルに巻き込まれないよう生徒の安全管理意識を高めた。特別活動では、感染症拡大防止を図りつつ生徒の自主的な活動の機会を確保するため、オンラインによる生徒会主催の学校行事実施や安全な部活動運営の確保に尽力した。また、保健委員会による清掃点検を継続して行い、学習環境の美化に対する意識の高揚が見られた。一方で、図書館利用については、「出張魚高図書館」等の図書館イベントを積極的に企画運営し生徒が図書に触れる機会を増やしたが、貸出冊数の増加にはなかなか結びつかなかった。

総合的に見て、感染症拡大防止を図りつつ学校全体で教職員による計画的な教育活動が有効に行われていることから、さらに魚津高校らしい充実した取り組みを継続してほしいとの評価を得た。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校では、全教職員が学校の現状に対する共通認識を持ち、改善に向けた着実な取り組みを継続しているが、次年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を前提に、学習指導、進路支援、そして生徒の自主的な活動のサポート等の充実を図らなければならない。そのための方策として、①授業改善を図るための教員相互の研修の充実、②オンライン授業にも対応できる ICT 機器の効果的活用の推進、③きめ細かなキャリア教育の実施による生徒の高い進路意識の醸成、に引き続き邁進することが重要である。また、生徒希望選択研修や海外研修等の本校の特色ある行事の実施を目指すとともに、「総合的な探究の時間」に実施している「キャリアデザイン講座」を通じて地域との積極的な連携を図り、地区の拠点校としての役割を果たす活動を通じて生徒がより高い進路目標の実現を図れるよう、これまで以上に教職員が連携して生徒をサポートすることが求められている。